

“きんぞく”って、どんなもの!?



【こどもの城】の造形スタジオでは、夏休み特別期間に向けて「素材との出会い展～金属と造形」を開催します。ここでは、銅、鉄、アルミ、真鍮（しんちゅう）などの金属を素材に、子どもたちや親子でさまざまな体験ができます。「金属」っていったいどんなものなのでしょう。遠い存在のように感じますが、ジュースの高、フライパン、はさみ、包丁、スプーン、フォーク、ファスナー、かぎなど、ぐるりと見回しただけでも実にたくさんの金属が私たちの生活の中で使われています。たいへん身近な物か？とこのできないものなのです。

金属は板のように固まっていると、光って冷たい感じがします。ところが、そこに熱を加えて溶かしたり、曲げたりつないだり、手を加え形を変えていくと、まるで命あるもののように生き生きとできます。その工程には、金属の性質に合った道具を使った、独特の作業が必要で、家庭や学校では体験しにくいものです。その扱いにくい金属に挑戦してみようと考えました。金属ってどんなものか、金属ってどのように扱えばよいか、を体験できる貴重なプログラムです。



▲造形スタジオ内の「金属と造形～親子体験コーナー」は、7月23日にオープンします。



▲昔用の道具を使って金属を



金属を加工するためには、「切る」「たたく」「みがく」「やすりをかける」「まげる」「つなげる」「こぶす」といったさまざまな技法が必要です。その1つ1つの作業に大変な時間と根気が必要とします。

今年の夏休み特別期間には、特別に「親子体験コーナー（7月23日～8月31日・6歳以上の親子・要予約）」を設け、硬い鉄や銅が人の手を加えることでどンドン形を変え、軟らかく弾みのあるものに変化していく過程を体験できます。このコーナーでは作品を仕上げるのが目的ではありません。じっくりゆっくり変化していく金属を、親子でじっくりゆっくり「体験」してほしいのです。



▲高学年の子供たちは区切られた静かなコーナーでじっくり制作に取り組みます。

夏休み特別期間前から、「親子コーナー」「高学年コーナー」では金属をテーマにプログラムが行われます。「高学年コーナー」では、金属を使って自分だけのアクセサリを作ります。金属は切るのも、加工するのも大変ですが、じっくり時間をかけて制作し、「きんぞく」をじっくりと体験してください。「親子コーナー」では、紙やセロハンテープなど子どもたちが使い慣れている素材と、細く切った缶などの「きんぞく」を組み合わせて制作します。小さな子でも造形活動を通して、知らず知らずのうちに「きんぞく」を体験できるプログラムを用意しています。「きんぞく」ってなにに「これが、きんぞくなんだ」と気づく瞬間を大切にしたいプログラムです。



▲先を利活用して作った「ビュースもん」。小さい子供向けのプログラムでは、ネーミングや遊びの要素も大切にしています。



▲先を利活用して作った「ビュースもん」。小さい子供向けのプログラムでは、ネーミングや遊びの要素も大切にしています。



▲作品の一例～親子体験コーナーの制作例（左上の丸）、金属で作ったアクセサリ～（左中・下の丸）、カンコンタイ（右）。

「素材との出会い展～金属と造形」では、自然の中に金属がどのような形で存在しているのかを分かりやすく紹介する「展示コーナー（7月19日～8月31日）」、2時間かけて金属特有の作業を体験する「親子体験コーナー」（月曜を除く7月23日～8月31日・6歳以上の親子・1日2回各10組・参加費＝1,000円・要事前申し込み）、小3以上の子どもたちを対象に金属を使ってアクセサリを作る「高学年コーナー」（夏休み特別期間中は毎日・当日申し込み）などを実施します。親子（幼児）で参加できるプログラムもあります。「きんぞく」を体験する」「きんぞく」特有の作業を体験する」ことで、硬く冷たい金属が軟らかく変わっていく過程を体験できるようになっています。詳しい内容は、【こどもの城】造形スタジオ（☎03-3797-5662）へお問い合わせください。